

## 2017年度 大阪女学院短期大学 自己点検評価

### I. 大阪女学院短期大学の目的

#### 「大阪女学院短期大学ミッションステートメント」

本学は、キリスト教に基づく教育共同体である。その目指すところは、  
真理を探究し、自己と他者の尊厳に目覚め、  
確かな知識と豊かな感受性に裏付けられた洞察力を備え、  
社会に積極的に関わる人間の形成にある。

#### ○創立者の一人 J.B.ヘール宣教師の言葉

「独立した単位としての人格という概念は、日本人が今日まで教えられてきたあらゆる哲学にないものである。… 人間を一つの単位と考える観念、自分の行動については自分に責任があるのだという観念は、日本人に理解し難いものだった。」

#### ○草創期ウキルミナ女学校校長アグネス.E.モルガンがミッションボードに書き送った教育の目標

「すべてに於いて私たちが目指すことは、何らかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をするを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力のある人間を形成することです」

本学の教育の目的を示すミッションステートメントには、上記の創立から草創期を支えた二人の考え方が色濃く反映されている。

### II. 教育内容と学習支援

#### 1. 教育のふりかえり

##### 1) 全般

2017年度卒業生アンケート（2018年3月卒業生）より

5. 大阪女学院短期大学について									
項目	はい			いいえ			無回答		
	2018/3卒	昨年		2018/3卒	昨年		2018/3卒	昨年	
1. 学内はこの大学独特の雰囲気が濃い	74	93.7%	94.4%	3	3.8%	5.6%	2	2.5%	0.0%
2. この大学は、より実用的・現実的教育をする傾向がある	66	83.5%	83.1%	11	13.9%	16.9%	2	2.5%	0.0%
3. 学生はリーダーシップ養成の機会に恵まれている	72	91.1%	92.1%	5	6.3%	7.9%	2	2.5%	0.0%
4. 大学は学生の能力や個性を活かす機会を与えている	68	86.1%	92.1%	8	10.1%	6.7%	3	3.8%	1.1%
5. 学生の勉強意欲をかりたてるような教授方法を工夫し、実行している教員は少ない	41	51.9%	38.2%	35	44.3%	61.8%	3	3.8%	0.0%
6. 一生懸命勉強しなくても、たいていの科目は簡単にパスできる	26	32.9%	29.2%	51	64.6%	70.8%	2	2.5%	0.0%
7. 学生は授業中さされるまですすんで発言しない	20	25.3%	29.2%	56	70.9%	70.8%	3	3.8%	0.0%
8. 教科書だけ勉強しておけばほとんどの試験に間に合う	25	31.6%	31.5%	51	64.6%	68.5%	3	3.8%	0.0%
9. 学生は目標を高くおき、それに向かって努力している	63	79.7%	76.4%	13	16.5%	22.5%	3	3.8%	1.1%
10. 教員は学生の能力を十分に引き出している	62	78.5%	76.4%	14	17.7%	22.5%	3	3.8%	1.1%
11. 学生の間では真剣な知的レベルの高い討論がよく行われている	49	62.0%	58.4%	27	34.2%	39.3%	3	3.8%	2.2%
12. 学問の厳しさを教える教員は少ない	43	54.4%	52.8%	34	43.0%	47.2%	2	2.5%	0.0%
13. 誰でも単位を取り易い科目と、取りにくい科目を知っている	41	51.9%	46.1%	36	45.6%	52.8%	2	2.5%	1.1%
14. 多くの教員は積極的に研究に携わっている	69	87.3%	87.6%	6	7.6%	11.2%	4	5.1%	1.1%
15. 教員の研究室をたずねて、議論をしたり質問をしたりする 学生が多い	50	63.3%	55.1%	24	30.4%	42.7%	5	6.3%	2.2%
16. ほとんどの科目では持続的な勉強や予習が必要である	62	78.5%	87.6%	14	17.7%	12.4%	3	3.8%	0.0%
17. 知的レベルの高い授業が多い	59	74.7%	66.3%	18	22.8%	33.7%	2	2.5%	0.0%
18. 学生は勤勉であり確固たる勉学目標を持っている	57	72.2%	68.5%	20	25.3%	29.2%	2	2.5%	2.2%

2) 英語教育

## 2017 英語科目授業アンケート結果→別途掲載

### 3) 共通教育

#### 2017 共通教育科目授業アンケート結果→別途掲載

##### ○キリスト教教育

キリスト教教育委員会の年間課題をテーマに、年間聖句を  
年間聖句とテーマ

- ・年間聖句「私たちが愛するのは、神が先ず私たちを愛して下さったからです(ヨハネの手紙 I 4:9)」
- ・年間テーマ「神の愛」
- ・一年間を通して 70%以上出席した学生が、大学、短期大学合せて 43 人、昨年度より少し減
- ・1 年生リトリート テーマ 「神と私」

実施日程 6 月 19 日 (木) ~21 日 (土) 例年通り大学と合同で行い、A 日程 : 6/19-20、B 日程 : 6/20-21 で実施した。

場所 アクティプラザ琵琶 講師 木ノ脇悦郎先生 (前関西学院大学神学部、神学研究科教授、元福岡女学院院長)

- ・2 年生リトリートは本学においてキリスト教に関する映画「マリア」を観て、関連する聖書箇所を英語で読み、気づきを分かち合う。

##### ○人権教育

人権教育講座 14 コースを実施

「人権教育講座」を 14 のテーマ別に実施した。学生は学習した内容を e-Portfolio に掲載し、ふりかえりの材料とした。

加えて人権教育委員会の提案として、人権教育講座の一部を SD として職員に開放した。

## 2. 学習支援

### ◎英語学習

Writing Center での英文 Writing 指導は、引き続いて需要も多く、正規の授業との連動を密に図り実施した。Tutoring の利用は依然として少ない。  
English Speaking Lounge の活用は、交換留学生や正規留学生の協力を得つつ利用状況の活発化に努めた成果が徐々に始めている。

#### Self Access Study Support Center

##### 1) ライティングセンターの利用状況

2017年度 は、短期大学と大学を合せて春学期 229 件、秋学期 234 件の年間 463 件の利用であった。

## 2) English Speaking Lounge

2017年度 は、短期大学と大学を合せて年間 60 件の利用であった。

## 3) チューター

	春学期	秋学期	計
短大	4	9	13
大学	2	3	5

2017年度、短期大学の利用者は前年に比べて少しだが増えている。

## 4) 英語セミナー

2017年度 英語セミナー

(日程)

2017年度 2018年1月12日(金)～1月24日(水)

(場 所)

本学での3日間プログラム(通い)

(参加者数)

2017年度 65名 内訳： 大学 40名・**短大 25名**

## ◎導入教育・初年次教育による学習支援

### 1) 入学前教育の実施

入学試験合格者に対して、11月から3月まで月一回の割合で計4回のスクーリングを実施した。例年通り短期大学で学ぶことへの動機づけや問題意識を立ち上げるためのプログラムが中心であったが、在学生のサポーターの協力を得て、在学生や教職員との関わりの機会、入学予定者同士の交流や友人関係の形成のきっかけとなるプログラムも提供した。

### 2) オリエンテーションの実施

8日間にわたるオリエンテーションプログラムを通じて、大阪女学院短期大学で学ぶことの意味、カリキュラムに沿った学びの進め方、教育施設

の利用法についての理解を深めるとともに、教育機器等の操作技術を習得することを促した。また学生自身が、短期大学での学びに対する姿勢や学習目標を明確に出来るよう、オリエンテーション期間中に BS が付き添う 1 泊 2 日の宿泊プログラムも実施した。

### 3) アドバイザー制度

2018 年度に OJC ゼミがスタートすることを踏まえ、今年度のキャンパスアドバイザーは全員、教員が担当することとなり、年間を通したサポートが実現した。

## ◎国際交流

### 国際交流

#### 1) 協定校の拡充による学習環境の多様化への支援

- ・協定等締結先の開拓（短期プログラムと本学短期大学からの編入）を行った。米国ハワイの University of Hawaii at Hilo と提携に向けて協議中である。
- ・台湾の ACUCA メンバー校（Chung Jung Christian University）と English Culture Exchange (ECE) program の実施等で協定した。
- ・新たに「エリアスタディーズ ハワイ」が科目として加わり、学生 9 名並びに引率 1 名で実施した。
- ・海外 CA 実習プログラムを新しい協定先である韓国の韓端大学にて実施した。

#### 2) 「学内国際交流」の実践

- ・日本人学生と留学生との交流を促すために、2017 年度は 10 のイベントを実施した。

#### 3) 「教職勉強会（学生対象）」の実施

教員養成センターが新規に教職を目指す学生が大学・短大、そして学年を超えて交流し議論ができる「教職勉強会」を立ち上げ、7 月と 12 月に開催した。それぞれ、大学・短大合わせて 7 月 28 人、12 月 25 人の学生が参加している。

## Ⅲ. 教育の実施体制

### 1. 教育学修環境の整備と充実

#### 1) クラウドを基軸にしたマルチデバイス（スマートフォン・タブレット・PC）を活用可能な能力の養成

自宅の個人 PC 所有率は昨年度に引き続き減少し、ICT 導入教育時のリテラシー格差はひらく傾向が顕著になった。卒業後の社会的な ICT 環境の現状を勘案し、大学における PC 教室の確保と上記環境に対応したクラウドを基軸にしたマルチデバイス（スマートフォン・タブレット・PC）を統合的

に活用可能な能力を養成する導入教育を取り入れた。この取り組みは、2017年6月に放送大学のBSテレビ放送講座で「大学教育におけるICT活用」の先進事例として取り上げられた。

## 2) 図書館機能の充実

毎年度実施している図書館員が授業に入り、情報検索・収集のサポート及びデータベースの使い方などのガイダンスを大学・短大合わせて19回実施した。学生の学修、教職員の教育に対する支援が目的である。

前年度に引き続き、短期大学の教育、研究に資するよう、学院が所有する各種資料の組織的収集、整理、及び電子化を進め、資料・情報面における図書館サービスを拡充した。また、タブレット端末（iPad）の積極的活用の一環として利用者一人ひとりのニーズに対応したレファレンスサービス（参考業務）を進めた。さらにLSC及び学院教育研究センターとの連携を密にし、学生の学修、教職員の教育研究に対する支援を充実した。

## IV. 学生支援

### 1. 奨学金

多様化している校内奨学金制度について併給の可否について併給可否リストを作成し、校内奨学金の学生への周知を進めた。

### 2. 生活サポート

#### 1) 学友会活動への支援

- ・学友会執行部が主体となり、学生参画プログラムが多く実施された。
- ・Graduation Partyで、卒業する学生から本学への想い等を語るプログラムを実施した。

#### 2) 関係者連携によるサポート

サポートが必要な学生に対しては、引き続き、学生課スタッフが中心となり、授業担当者や学生相談室スタッフ、保健室スタッフ、教務・学生課と連携しながら対応している。

### 3. 進路サポート

#### 1) 就職

2017年5月1日現在、就職希望学生の94.1%、(昨年同日比、98.5%)の就職率である。

#### 2) 編入学

大阪女学院大学のカリキュラムを説明する説明会を引き続き行った。大阪女学院大学への成績上位者の編入希望者増につながっている。

過去3カ年の編入学状況(合格者数) (人)

	2015年度	2016年度	2017年度
国立大学	1	1	1
公立大学	0	1	0
私立大学	16	12	19
内併設大学	7	4	8
合格数合計 ※	17	14	20

#### 4. 退学率低減への取組

欠席が続く学生に対しても関係者が連携してサポートする方法を採っている。

#### VI. 地域等への貢献

- ・玉造地区地元商店街、印刷会社とのコラボレーションによる日捲りカレンダーの共同制作と配布は、継続して行った。
- ・大阪私立短期大学協会における共同広報委員会の運営責任校として引き続き、短期大学のイメージアップのための共同広報に取り組んだ。

#### 2. 生涯学習

##### 1) Wilmina Extension School

開講講座及び受講生数は以下の通りであった。

	2017年度	
	春	春
開講講座数	15	15
受講生数	117	117

##### 2) Wilmina 公開講座

Wilmina 公開講座	2017年度	
タイトル	命どろ宝 アートで平和をつくる	
	1部	2部
日程	2018年1月28日(日)	
講師	佐喜眞 道夫	佐古 忠彦

	(佐喜眞美術館 館長)	(TBS報道局 映画監督)
参加者数	112名	

テーマ「いのち」の2年目である。2部では、映画『米軍が最も恐れた男 その名はカメジロー』（2017年107分 監督：佐古 忠彦）を上映し、前後に監督のトークおよび質疑応答を行った。

## Ⅶ. 学生募集・広報

### 1. 学生募集

#### 1) 学生募集広報活動の推進

##### (1) SNS の活用

公式フェイスブックの内容の充実に努め、新たにLINE、Instagramを開始し、より高校生に添った入試情報等の提供を進めた。

##### (2) スマートフォン対応の受験生ナビ

受験生ナビを完全スマホ対応版にリニューアルし、その他、スマホ化の一層の進行に対応した資料提供を始めた。

##### (3) 遠方の日本語学校への学校訪問

日本語学校への学校訪問の範囲を従来の大阪近辺から遠隔地に広げて行い、留学生の募集充実に図った。

##### (4) 大阪女学院高校生へのオープンキャンパス実施

大阪女学院高校進路指導部との情報交換を積極的に行い、本学の教育内容への理解を得ることに努めた。要望により学内選抜二期入試日程を変更して入学生増を図った。

##### (5) 高等学校教員を対象とした授業公開及び英語教育

教育方法改善の工夫を紹介し、本学の教育に対する一層の信頼感の醸成を図った。積極的な授業の公開を実施した。

### 2. 大学全体の広報の展開

#### 1) 地下鉄駅ショウウインドウのディスプレイ広報の展開

引き続き定期的な更新を実施している。

#### 2) 学内広報誌“Wilmina Voices”の定着

当該年度を紹介する編集方針が定着。記録的な要素も加わる紙面となった

## Ⅷ. 施設・設備の整備

### 1. 施設設備の更新

2017年度は次の工事を行った。

○本館給水配管更新工事○学生用トイレ2箇所の改修工事(今後も順次実施)○本館廊下と階段の床材張替工事

## IX. 自己点検・評価と改善に向けての制度等整備

### 1. 就職先企業の調査

卒業生の就職先企業の人事担当者を対象とした本学出身者に対する意識調査を実施、「公共性」「誠実・責任感」などに高い評価を得た。

### 2. FD及びSD活動

教職員のICTスキルの向上のためのFD及びSDプログラムを前年度に引き続き実施した。

### 3. 自己点検・評価

自己点検評価委員会により、本学の自己点検に必要な教学IRのデータの整備状況についての点検と確認の結果、全学生がiPadを所持し、モバイル端末としても機能していることが寄与し、調査用紙によるデータの収集から、ICT環境を利用したデータ収集への移行が進んでいることが確認された。

### 4. 委員会の機能の改革と教学IR、質保証への取組

学長の指示により各委員会の役割と目的を再確認し、年度当初に各委員会の活動計画を全体職員会(SM)で共有する取組みに加えて、年度末に各委員会の活動の進捗状況等を全体職員会(SM)で共有した。

IR委員会により、現状認識の共有を図るためIR情報のより効果的な活用を期してワークショップ型の委員会運営を行った。

### 5. 認証評価への備え

2019年度に迎える認証評価に備え、委員会活動と事務局関連部署の連携を考慮した委員編成を進めた。

### 6. 競争的資金、科研費の獲得

短期大学においても大学等改革総合支援事業等の特別補助金の獲得をめざし検討したが、未採択に終わっている。

科研については、4件の申請を行ったが、採択には至らなかった。

### 7. 人的体制の整備

大学事務局の活性化を期した事務局内の異動について2018年度初頭からの異動を決め実施に移す。

また、法人事務局、中高事務局との人事異動を引き続いて実施した。